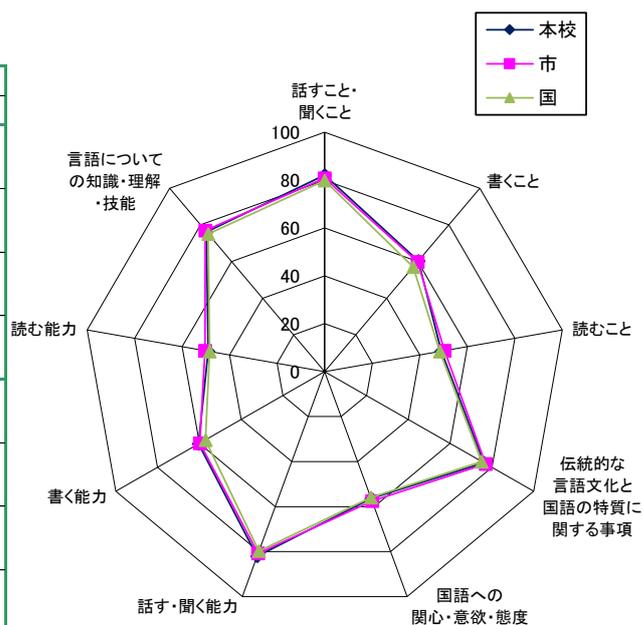


宇都宮市立陽西中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	82.1	80.8	79.8
	書くこと	60.4	59.8	57.1
	読むこと	49.1	50.4	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.2	77.0	75.1
観点	国語への関心・意欲・態度	56.4	57.5	56.0
	話す・聞く能力	82.1	80.8	79.8
	書く能力	60.4	59.8	57.1
	読む能力	49.1	50.4	48.5
	言語についての知識・理解・技能	76.2	77.0	75.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

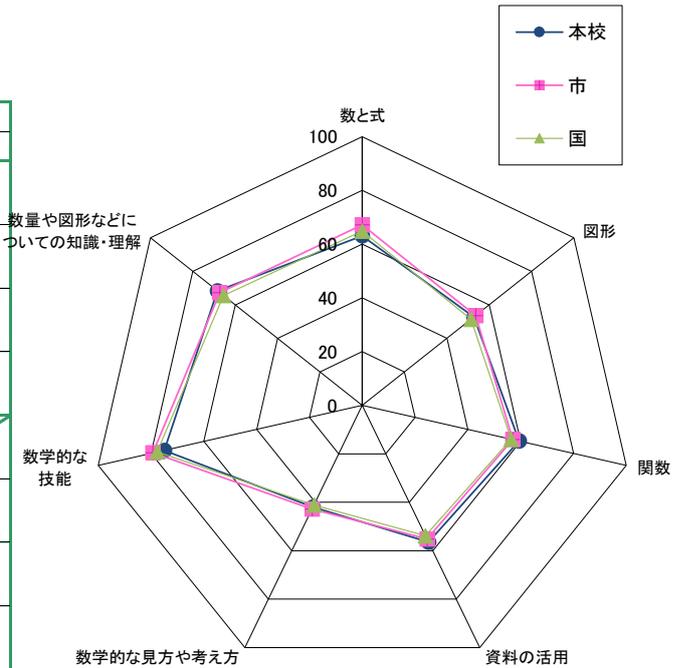
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○話すこと・聞くことの領域では、正答率82.1%で宇都宮市と比較して、1.3ポイント高い。質問の意図を考える問題では、正答率95.9%で宇都宮市の平均と比較して3.1ポイント高い。</p> <p>●話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える問題では、正答率58.0%で市の平均より0.6ポイント低い。</p>	<p>・話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える趣旨の出題においては、参加者の誰がどのようなことについて発言するとよいか、など場面設定を理解し、話し合いの仕方を考えるように普段の話し合い活動から身につけさせたい。また、発言する上で、発言する理由についてまとめ、記述することができるように練習させる。</p>
書くこと	<p>○書くことの領域では、正答率60.4%で、宇都宮市の平均正答率を0.6ポイント上回っている。</p> <p>○「意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する」の正答率は27.8%で、市の平均より0.9ポイント高い。</p> <p>●「意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く」の正答率は78.1%で、市の正答率に比べ0.8ポイント低い。</p>	<p>・教科書の課題にとどまらず、引き続き、NIE(新聞を利用した教育活動)なども取り入れ、広く社会生活に目を向け、自分の意見を書く練習をさせていく。また、友達と互いに読み合い、構成や表現を工夫することの効果に気づかせる。</p> <p>・意見文を書く際、論理的に根拠をたて、構成を工夫し、自分の立場を明確に意見を述べる指導を継続する。</p> <p>・今後は、学習のまとめ・振り返り、発展学習として自分の考えを書く学習を積み重ねていく。</p>
読むこと	<p>●読む能力の領域では、正答率49.1%で市の平均正答率を1.3ポイント下回っている。</p> <p>○「場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する」は正答率が66.9%で、市の平均より5.8ポイント高い。</p> <p>●「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」は正答率が14.2%で、市の平均より4.6ポイント低い。</p>	<p>・教科書の文学的文章の教材においては、場面の展開、登場人物の心情・行動について、情景描写や比喻表現等に気づかせ、作品の魅力を味わわせるようにする。</p> <p>・普段の授業の中でも良書を紹介し、読解指導を継続するとともに、日常の読書の中でも、楽しむ読書から、考える読書をするよう、今後も指導をする。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>●伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項については、76.2%で宇都宮市の平均正答率を0.8ポイント下回った。</p> <p>○「文脈に即して漢字を正しく読む」の平均正答率は88.8%で、市の正答率より0.4ポイント高い。</p> <p>●「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」の平均正答率は69.8%で、市の正答率に比べ3.8ポイント低い。</p>	<p>・引き続き漢字練習帳を十分に活用し、定期的に小テストを行うことにより定着を図る。</p> <p>・漢字や語句には多様な意味を持つものもあることに気づかせ、読書や作文を通して、語彙力を身に付けさせたい。また、身に付けた知識を日常生活で的確に使えるよう適宜指導していく。</p>

宇都宮市立陽西中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	63.1	67.2	64.9
	図形	52.7	53.6	51.4
	関数	59.4	57.0	56.4
	資料の活用	56.4	55.1	53.8
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	42.0	42.8	41.1
	数学的な技能	75.0	79.3	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	68.4	67.4	65.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は、全国平均より1.8ポイント、市平均より4.1ポイント低い。 ○「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる」では、全国平均を3.1ポイント、市平均を1.7ポイント上回っている。 ●「整式の加法と減法の計算ができる」では、全国平均を7.9ポイント、市平均より10.3ポイント下回っている。また、「数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる」では34.3ポイントもの無解答があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な計算力の向上に向け、計算テストを行い、正答率を高める。 ・数の性質の証明については、書き方の手順を確実に定着させるため、記述式の問題を練習する機会を増やす。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は、全国平均より1.3ポイント高く、市平均より0.9ポイント低い。 ○「錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している」では、全国平均を3.7ポイント、市平均を0.6ポイント上回っている。 ●「平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる」では、全国平均を2.9ポイント、市平均を6.1ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形についての定義や定理、性質などの学習を丁寧に取り扱い、理解の深化を図る。また、複数の図形が取り入れられた問題において、着目すべき視点や要点に気付くことができるよう、練習の機会を増やす。 ・教材・教具に具体物を多く取り入れる等の工夫をし、理解を促す。
関数	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は、全国平均より3.0ポイント、市平均より2.4ポイント高い。 ○「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」では、全国平均6.0ポイント、市平均を5.6ポイント上回っている。 ●一方で、同じ項目「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」における無回答率が21.9ポイントと二極化の傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数を「表」「式」「グラフ」に表し、それぞれを相互に関連付けて、考察できるような力を育成する。また、それを利用して、問題を解決するための論理的な思考や演繹的な思考の涵養を図る。
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は、全国平均より2.6ポイント、市内平均より1.3ポイント高い。 ○「与えられたデータから中央値を求めることができる」については、全国平均を3.7ポイント、市平均を3.5ポイント上回っている。また、「相対度数の必要性和意味を理解している」では、全国平均を4.6ポイント、市平均を2.8ポイント上回っている。 ●「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」では、全国平均を1.0ポイント、市平均を1.5ポイント下回っている。また、無回答率が27.2ポイントとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の活用に関しては、何を調べたいのか、どの方法で調べるのかを明確にし、その理由を説明する活動を通して理解を深めていく。 ・ヒストグラムや度数分布多角形については、図に表すことだけでなく、どのような傾向があるのかを考察する活動を通して、理解を深めていく。

宇都宮市立陽西中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」に対して、県全体や全国と比べて、1.2ポイント低い、「毎日、同じ時刻に寝ているか」では、全国より2ポイントほど高く、「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」では全国の割合とほぼ同じである。今後とも、規則正しい生活を心がけて生活するように指導していく。

○「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」の質問に対して、肯定的回答が70.4%で、全国よりも4ポイント上回っている。難しいと感じることでも、粘り強く取り組む力をもっている生徒が比較的多いといえる。

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対して、肯定的回答が、97.6%と高く、全国と比べて2ポイント以上上回っている。「学校に行くのは楽しいと思いますか」や「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の質問に対しても、全国の割合より2ポイント～7ポイント上回っている。今後も授業や学校生活が充実して過ごせるようにしていく。

●「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に対して肯定的回答は65.1%と県全体より8ポイント、全国よりも3.5ポイント下回っている。また、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」の質問に対しても、県全体より5ポイント、全国よりも2ポイント下回っている。今後は、学校行事等も工夫しながらいろいろなことに挑戦させるとともに、教育相談などの機会に学習や生活についての目標を持たせ、自分で課題を設定し、それに向かって取り組み、やり遂げるという活動を多く行っていく。

●「学校の授業以外に、1日にどれぐらいの時間勉強していますか」の質問に対して、2時間以上と解答した生徒の割合は33.1%と県全体・全国の割合より、8ポイント下回っている。さらに「土曜日や日曜日など学校が休みの日に1日当たりどれぐらい勉強していますか」の質問に対しても、県全体よりも7ポイント、全国の割合よりも1ポイント下回っている。毎日の家庭学習を呼びかけ、自主学習を毎朝提出させたり、定期テスト前に生徒が作成した予想問題に取り組んだりしている。自発的に学習に取り組む姿勢を促すための手立てをさらに工夫していく必要がある。

宇都宮市立陽西中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「わかる授業」の展開、授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「一人一授業」を実施・研究協議することで、教師の授業力を高め、生徒にとってより分かりやすい授業の構築をめざす。 ・授業の学び合いのサイクル「つかむ」「学び合う」「まとめる」「振り返る」を着実に進行。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「国語の授業の内容はよく分かりますか」「1、2年生のときに受けた英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか」の問いに肯定的に答えた生徒の割合は、どちらも県の平均を上回っていた。
基礎・基本の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> ・希望者を募り、数学中心に「レベルアップ学習」(平日)や「土曜学習サポート」などを行うことで、生徒の基礎学力の底上げを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「数学の授業の内容はよく分かりますか」「数学の問題の解き方が分からない時は、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」という問いに、7割強の生徒が肯定的に回答しており、ほぼ県の割合と同じであった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
家庭学習の習慣化 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という問いに対して肯定的に答えた生徒の割合は6割弱で、県の割合を10ポイント下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに家庭学習の仕方や「自主学習ノート」の取組についての手引きを配付する。また、「自主学習」に使えるワークシートを各学年ごとに配置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに、陽西地域学校園で作成した「家庭学習の手引き」をもとに、家庭学習の取組について、様々な場面で指導を行い、家庭学習の習慣化を図る。 ・各教科で自主学習として使用できるプリント等を準備し、生徒が自由に持ち帰れるようにする。また、随時新しい内容(プリント)に更新したことを知らせるボードを設置し、自主学習への取組を促す。
ICT機器の活用 「あなたは学校で、コンピューターなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使っていますか」という問いに「週1回以上」と答えた生徒の割合は、3割弱で県の割合を15ポイントほど下回っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「PCの日」を設け、朝の10分間の時間を使いアンケートや教科の学習など、タブレットに触れる機会を多く作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人1台クロームブックを使用し、授業中にインターネットで調べたり、問題を解いたり、質問に答えたりなどタブレットの活用回数を増やしていく。さらに、授業の中で生徒同士の協働的な学び等に積極的に活用するなど使用の幅を広げていく。